

失題

古莊嘉門

才子元來多事過
議論畢竟世功無

誰知默默不言の裡
山是青青花是紅

【作者】古莊 嘉門（一八四〇〜一九一五年）明治時代の官僚、政治家。名は惟正（これまさ）、号は火海（かかい）、嘉門は通称名である。肥後（熊本）藩医の子として熊本城下に生まれる。十六歳で木下犀潭（きのしたさいたん）の塾に入り四天王の一人に数えられた。明治二十一年、森 有礼（もり ありのり）文相に選ばれ第一高等中学校長となる。大正四年没す。年七十六。

【語釈】 *才 子…知恵のある人…畢 竟…つまり

【通釈】 才子は昔から物事をやりそこなうことが多い。才を頼んで議論を好む結果、議論倒れになってしまつて、結局は、世の中に何の利益ももたらさない。見よ、自然は無言の中に運行し、春ともなれば、山は青く茂り、花も時を違えず紅く咲くではないか。

【備考】 この詩は、森羅万象（しんらばんしょう）の裏（うち）に不言実行の妙を教えている。